様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：２５４０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０２８５

研究課題名（和文）ヴィクトリア朝文学文化に対する写真術の影響に関する研究

研究課題名（英文）A Study of the Influence of Photography on Victorian Literature and Culture

研究代表者
吉本　和弘（Yoshimoto, Kazuhiro）

県立広島大学・人間文化学部・教授

研究者番号：９０２１０７７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：ヴィクトリア朝期のイギリスにおいて写真術の発明が特に他者表象という点で当時の文学や文化にいかなる影響を与えたかを検証するため、アーサー・マンビー、ルイス・キャロル、ジュリア・マーガレット・キャメロン等の写真家たちについて調査し研究した。写真を保管している英米の研究施設において現地調査を行い、同時に一次文献資料や先行研究を読み進めた。成果として、アーサー・マンビーについての総合的な研究を『美しき汚れ：アーサー・マンビーとヴィクトリア朝期女性労働者の表象』松柏社刊、2015年として出版した。さらに、キャロルとキャメロンについての研究を学会発表、紀要論文等で発表しつつ、次なる出版原稿を執筆中である。

研究成果の概要（英文）：This is a study to investigate into the influence of the invention and introduction of photography on Victorian society, culture and literature. The focus is on three important photographers and a photograph collector: Arthur Munby, Lewis Carroll, and Julia Margaret Cameron. Three research trips were made to institutions in the UK and the USA, including Cambridge University, Oxford University, University of Texas, Austin, and others, which have photographic collections and first-hand materials. As a result of this investigation I published a book: Beautiful Dirt: Arthur Munby and the Representation of Victorian Working-class Women, in 2015 with Shohakusya Publishing Company, which received favorable reviews in a few journals. Also, I have been making some presentations at the Victorian Culture Society of Japan and the Lewis Carroll Society of Japan, as well as writing additional papers with the aim to publish another book or two in the near future based on this research.

研究分野：英語英文学・文化研究

キーワード：ヴィクトリア朝文化　写真術　アーサー・マンビー　ルイス・キャロル　ジュリア・マーガレット・キャメロン　他者の表象

１．研究開始当初の背景

発明間もない写真術がヴィクトリア朝期の芸術文化どのような影響を与えたのか、様々な学問分野において近年関心が高まっている。科学技術でありながら同時に芸術とも見なされた写真は、人々にとって全く新しい表現メディアだった。写真の黎明期に活躍したジュリア・M・キャメロンやグスタフ・レイランダー、H. P. ロビンソン、アマチュア写真家ルイス・キャロルの撮影した写真、アーサー・マンビーが集めた労働者階級の女性たちの写真コレクションなどの貴重な写真コレクションが各地に存在するが、これらについての本格的な調査研究は、英米ではかなり多面的に行われてきてはいるが、日本ではまだあまり関心が持たれていない感がある。本研究では、そのような英米での研究成果を踏まえながら、より包括的かつ脱領域的に写真の革新性や特殊性、そして強大な影響力について考察し、明らかにしようとするものである。

研究開始時点での主な研究としてのマクリントック(McClintock)の *Imperial Leather* (1995)は、ポストコロニアリズム的視点から英国の植民地主義から現代のアフリカの人種差別問題に至る、人種、階級、ジェンダー、そしてナショナリズムの問題を多面的な視点から考察している。最近の研究としては、ダナヘイ(Danahay)が *Gender at Work in Victorian Culture* (2005)で、特に男性性の表象という意味からマンビーを取り上げ、ヴィクトリア朝期における男らしさの概念と労働を免除された中産階級男性のアイデンティティの不安について考察した。これらの研究は文化研究における写真が、「ジェンダー」「階級」「他者」について考える際に重要な鍵となることを示し、また視覚表象の問題がますます多くの分野からの関心を集めていることを示している。本研究は日本における最初のヴィクトリア朝写真についての総合的研究となるものである。

２．研究の目的

全く新しい技術としての視覚メディアとしての写真術が文学や視覚芸術や当時の時代精神に与えた影響について研究し、子供、女性、労働者、異人種、身体障害者などのいわゆる「他者」に、どのような視線が向けられていたのかについて、ジェンダー、人種、階級、に関する批評理論を援用しながら考察する。

それによってヴィクトリア朝期イギリスの帝国主義、植民地主義の時代思潮と、視覚メディアの関係性について、文化研究、美学、文学、科学史研究などの複数の学問を脱領域的に横断しながら研究する。この研究成果により、写真の出現という激変とともに起きた人々の意識の変化を、視覚メディアが高度に発達しつつある現代の問題としても捉え直すことができるだろう。

３．研究の方法

まず、研究対象とする写真コレクションを所蔵する英米の図書館や博物館などを実際に現地調査し、一次資料、特に写真コレクションを直接調査し、記録画像等の資料として収集し、データベース化する。また、写真に大いに影響を受けた絵画運動、特にラファエル前派の絵画作品と、画家たち、D. G. ロセッティ、J. E. ミレイ、アーサー・ヒューズなどについての研究も進める。そのために特にイギリスに存在する絵画作品を実際に鑑賞し、それらの絵画に関する批評についても研究する。これによって写真と絵画の影響関係を解き明かす。同時に写真史や写真批評に関する文献、写真によって影響を受けたと考えられる文学作品とその批評などの文献資料を集め、これを読み解きながら、文化全般、特に文学作品における写真の影響についても考察する。

具体的には、研究期間中に以下の研究施設を訪れて資料を調査し必要な情報を収集することを目標とする。：イギリスのケンブリッジ大学レン・ライブラリーのマンビー・コレクション、オックスフォード大学クライスト・チャーチのキャロルに関する資料、ワイト島のジュリア・マーガレット・キャメロンの居住地跡ディンボラ・ロッジにある資料館、ブラッドフォードのメディア・ミュージアム、ヴィクトリア・アンド・アルバート(V&A)・ミュージアム、テイト・ギャラリー、大英図書館など、アメリカのメトロポリタン・ミュージアム、テキサス大学オースチン校ハリー・ランサム・センター、ポール・ゲッティ・ミュージアム、プリンストン大学図書館、ニューヨーク大学図書館、ニューヨーク市立図書館、モーガン・ライブラリー、ローゼンバック・ミュージアムなど。調査の過程で、未知の、より広範な資料の発見も見込まれるので、それらについても、今後の研究の対象として考慮しながら調査を進めて行く。

４．研究成果

研究期間中、上記の資料保管場所の七割程度を最低一度実際に調査することができた。その結果、多数の写真の実物を実際に手にとって見ることができた。しかし費用と時間の問題もあり、未調査の施設も数カ所残っている。また一度の調査では十分な滞在時間が得られなかったために、予想以上に大量の資料が存在して、その全てを見ることができなかった所もある。

その中でもほぼ全ての資料を調査し終え

たのがケンブリッジ大学のレン・ライブラリーである。ここに所蔵されているアーサー・マンビーの写真コレクションについての数回の現地調査と、それまでに出版していた考察をまとめ、新たなる書き下ろし部分を追加編集して、2015 年に春風社より日本初の総合的研究として『美しき汚れ：アーサー・マンビーとヴィクトリア朝期女性労働者の表象』(263 項、ISBN9784861104428)を出版した。

この著書についてはイギリス女性史研究会誌『女性とジェンダーの歴史』第 4 号 2017 年、や日本ヴィクトリア朝研究学会誌『ヴィクトリア朝文化研究』 No．15，2017、において書評が掲載され、一定の評価を得たと考えている。前者では本書が「日本初の専門書」であることを認定し、本書を読むことが「著者の鋭い洞察と洗練された解釈により」、「スリルに満ちた体験であった」との感想と、「総合的で学問領域を横断するような研究」として「題材の選択は極めて正しかったと言えよう」との評価を得た。後者では「こうした個別的な事例を通じてこそ、私たちは、写真というメディアの本質に迫ることができるのかもしれない」という示唆を得た。

これに並行して、ジュリア・マーガレット・キャメロンの写真についてはワイト島、V&A、テキサス大学、ゲッティ・ミュージアム、メディア・ミュージアムなどのコレクションを調査することができた。特にキャメロンが桂冠詩人テニソンの『国王牧歌』の挿し絵として撮影した一連の大型写真と、それを貼り付けて製本した大型の詩集本について、その制作過程や撮影した場面の選択、先行する絵画との類似点、あるいは模倣したのではないかと思われる技巧などについて考察し、この成果については日本ヴィクトリア朝文化研究学会での発表を行った。この発表内容の論文化したものを含めて、さらに多面的な論考を書きため、著書にまとめるための準備、執筆作業を進めているところである。

ルイス・キャロルについてもオックスフォード大学、メディア・ミュージアム、テキサス大学、ゲッティ・ミュージアムなどの資料を調査した。プリンストン大学には多くの資料があるが、これはまだ未調査である。その他、キャロルの写真は各地に散らばっており、全てを調査するのは難しいが、英米の研究者によってかなりの程度で資料は整理されており、すでに出版されているものも多いので、それを参考に考察中である。

テキサス大学ハリー・ランサム・センターには、キャロルが自分で撮った写真を中心に制作した写真アルバム４冊が所蔵されているが、これらを実際に調査し、そのうち主要な２冊についての考察を日本ルイス・キャロル協会の 2016 年と 2017 年の年次大会で研究発表として行い、それらの内容を論文にまとめ、勤務する大学の学部紀要に発表した。これらの論文と、『不思議の国のアリス』出版に至るまでの時期におけるキャロルの写真との関わりと、作品の内容やイメージ形成について、包括的な論文を執筆中であり、これらをまとめて一冊の著書として出版を計画中である。

資料を調査するにつれて、これまで知らなかった様々な資料を発見するということがあり、現在のテーマから派生する多様なテーマの発見もあった。例えば、当時写真というものが様々な加工を施されて、コラージュとして再構成されたり、絵画と合体したり、装飾品として様々に展示方法を工夫されたりしていたこと、それらを構成して作られた非常にユニークなアルバムの存在を知ることができたこと、カルト・ド・ヴィジットと呼ばれる名刺版写真のコレクションが一般の人々の間で大流行していた事実など、写真の影響が実に様々な広がりを見せていることに気付かされた。

今回主な研究対象としたキャロル、マンビー、キャメロン、以外にも、特徴的な写真を撮っていたユニークな写真家が存在するということも知ることができた。例えば、レディ・クレメンタイン・ハワーデンなど、これまで研究対象と考えていなかった写真家の写真を数多く見ることもできて、今後の研究対象とすべきという確信も得た。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

1．<u>吉本和弘</u>「ルイス・キャロルの写真アルバム A [VI]に見る写真と絵画の影響関係」、県立広島大学人間文化学部紀要第 12 号、2017 年 3 月１日、査読なし。

2．<u>吉本和弘</u>「ルイス・キャロルの写真アルバム A [III]とラファエル前派芸術」県立広島大学人間文化学部紀要第 13 号、2018 年 3 月１日、査読なし。

〔学会発表〕（計４件）

1. 吉本和弘「女性労働者がレィディに変身する時―アーサー・マンビーの写真におけるラファエル前派的なもの―」、日本ヴィクトリア朝文化研究学会、第 15 回全国大会、2015 年 11 月 21 日、於同志社大学。

２. 吉本和弘「ルイス・キャロルの写真アルバムA[IV]を読む」日本ルイス・キャロル協会、第22回研究大会、2016年10月29日、於タワーホール船堀（東京）

３.吉本和弘「ジュリア・マーガレット・キャメロンの写真とラファエル前派主義：テニソン『国王牧歌』 の挿絵になった（なれなかった）ナラティヴ・フォトグラフ」日本ヴィクトリア朝文化研究学会、第16回全国大会、2016年11月26日、於筑波大学東京キャンパス。

４. 吉本和弘「ルイス・キャロルの写真アルバムA[III]におけるラファエル前派的なもの」日本ルイス・キャロル協会、第23回研究大会、2017年11月4日、於タワーホール船堀（東京）。

〔図書〕（計１件）
『美しき汚れ：アーサー・マンビーとヴィクトリア朝期女性労働者の表象』春風社、2015年。
〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
吉本和弘（YOSHIMOTO, Kazuhiro）
県立広島大学人間文化学部教授
研究者番号：９０２１０７７３

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）